

## ABO 血液型不適合生体腎移植の 1 例

みつ	い	よう	ぞう	あり	ち	なお	こ	ひら	おか	たけ	お
三	井	要	造	有	地	直	子	平	岡	毅	郎
わ	け	こう	じ	いの	うえ	しょう	ご	す	むら	まさ	ひろ
和	気	功	治	井	上	省	吾	洲	村	正	裕
ほん	だ		さとし	しい	な	ひろ	あき	い	がわ	みき	お
本	田		聡	椎	名	浩	昭	井	川	幹	夫

キーワード：血液型不適合，生体腎移植

### 要 旨

症例は22歳男性。血液型はO型。逆流性腎症による腎機能障害を認め、2001年9月に腹膜透析（CAPD）導入に至り、2005年1月から血液透析に移行した。腎移植の強い希望があり、父親（血液型はB型）をドナーとする生体腎移植目的で2005年9月8日当科入院となったが、ABO血液型不適合であるためまず9月16日に脾臓摘出と虫垂切除を行った。その後二重濾過を合計3回、血漿交換を1回施行した。術直前の抗B抗体価は9日朝の抗B抗体価も1倍で、予定どおり父親をドナーとする生体腎移植術を行った。なお、リンパ球クロスマッチは抗TW抗体、抗BW抗体および抗BC抗体すべて陰性、panel reactive antibody（PRA）も陰性であった。術後経過中に明らかな急性拒絶反応は経験せず、現在血清Cr値は1.2 mg/dlで腎機能は良好に推移している。

### 緒 言

血液透析や腹膜透析は末期腎不全に対する代表的な治療法であるが、いずれも腎不全に対する根本的な治療法ではなく、慢性腎不全の最も優れた根治的治療法は腎移植のみである。我が国では欧米諸国に比較し献腎の不足が深刻で、このような圧倒的な献腎不足の社会的事情を反映して生体腎移植が普及したのは事実である。島根県における

腎移植の歴史は1986年からで、2001年日本移植学会の統計では生体腎移植術は年間1～2例程度で、献腎移植に関しても1995年4月以降2008年1月までの期間で9例が行われているに過ぎない。一方、腎移植の適応を拡大する目的で、1989年よりABO血液型不適合腎移植が全国で約500例に実施されているが<sup>1)</sup>、ABO血液型不適合移植は血液型適合移植に比較し免疫学的にハイリスクで難易度の高い腎移植であることには変わりはない。今回我々はABO血液型不適合生体腎移植を島根県で初めて経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。

Yozo MITSUI et al.

島根大学医学部泌尿器科

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1